

■本当によくわかる電験1種二次試験の過去問完全解答 2020年版 第1巻
 における正誤表

○2020年8月13日分

科目	問題	誤植箇所	誤	正
電力・管理	2016年 問1	解答(2) タイトル	(2)排熱回数方式と比較した場合	(2)排熱回収方式と比較した場合

○2020年8月31日分

科目	問題	誤植箇所	誤	正
電力・管理	2015年 問6	解答(3) 最後から3行目	$P'_A = 100 - 20$ $= 80$ [MW]	$P'_B = 100 - 20$ $= 80$ [MW]
機械・制御	2015年 問2	問題文(4)	$V = 1$ p.u.及び $V = 0.5$ p.u.	$V = 1$ p.u.及び $P = 0.5$ p.u.

○2020年10月11日分

科目	問題	誤植箇所	誤	正
電力・管理	2018年 問2	解答(2) 試験センター解答例	連鎖的な発電機の脱落に繋がる可能性がある。	連鎖的な発電機の落に繋がる可能性がある。
機械・制御	2019年 問1	問題文(3)	始動電流は全負荷電流の41.0%である。	始動電流は全負荷電流の410%である。

○2021年1月3日分

科目	問題	誤植箇所	誤	正
電力・管理	2014年 問5	解答(2)	よって、コンデンサ容量 Q_C [kvar]は、接続点における配電線電圧 $V_C = 6.6$ [V]であるので、	よって、コンデンサ容量 Q_C [kvar]は、接続点における配電線電圧 $V_C = 6.6$ [kV]であるので、

	2019年 問3	解答(1) 図2	<p style="text-align: center;">図2 3線地絡時の等価回路</p>	<p style="text-align: center;">図2 3線地絡時の等価回路</p>
機械・制御	2018年 問2	解説(1)b	$E_A = \sqrt{(V^2 + X_{SA}I_A \sin \phi_A)^2 + (X_{SA}I_A \cos \phi_A)^2}$ および $E_A = \sqrt{(1^2 + 2 \times 1 \times 0.43589)^2 + (2 \times 1 \times 0.9)^2}$ $\cong 2.5968 \rightarrow 2.60 \text{ [p.u.]}$	$E_A = \sqrt{(V + X_{SA}I_A \sin \phi_A)^2 + (X_{SA}I_A \cos \phi_A)^2}$ および $E_A = \sqrt{(1 + 2 \times 1 \times 0.43589)^2 + (2 \times 1 \times 0.9)^2}$ $\cong 2.5968 \rightarrow 2.60 \text{ [p.u.]}$
	2018年 問2	解説(2)	P_A, P_B は, $P_A = \frac{E_A V}{X_{SA}} \sin \delta$ $= \frac{2.5968 \times 1}{2} \times 0.59911$ $\cong 0.77788 \rightarrow 0.778 \text{ [p.u.]}$ $P_B = \frac{E_B V}{X_{SB}} \sin \delta$ $= \frac{2.2871 \times 1}{1.6667} \times 0.59911$ $\cong 0.82212 \rightarrow 0.822 \text{ [p.u.]}$ と求められる。	P_A, P_B は, $P_A = \frac{E_A V}{X_{SA}} \sin \delta = \frac{2.5968 \times 1}{2} \times 0.59911$ $\cong 0.77788 \text{ [p.u.]}$ $P_B = \frac{E_B V}{X_{SB}} \sin \delta = \frac{2.2871 \times 1}{1.6667} \times 0.59911$ $\cong 0.82212 \text{ [p.u.]}$ となるので、kWに変換すると、 $P_A = 10000 \times 0.77788 = 7778.8 \rightarrow 7780 \text{ [kW]}$ $P_B = 10000 \times 0.82212 = 8221.2 \rightarrow 8220 \text{ [kW]}$

				と求められる。
2019年 問2	解説(4)	$(X_S I_c)^2 = V_n^2 + E_c^2 - 2V_n E_c \cos \delta$ $I_c^2 = \frac{V_n^2 + E_c^2 - 2V_n E_c \cos \delta}{X_S^2}$ $I_c = \frac{\sqrt{V_n^2 + E_c^2 - 2V_n E_c \cos \delta}}{X_S}$	$(X_S I_c)^2 = V_n^2 + E_c^2 - 2V_n E_c \cos \delta_c$ $I_c^2 = \frac{V_n^2 + E_c^2 - 2V_n E_c \cos \delta_c}{X_S^2}$ $I_c = \frac{\sqrt{V_n^2 + E_c^2 - 2V_n E_c \cos \delta_c}}{X_S}$	
	解説(5)	$I_c = \frac{\sqrt{V_n^2 + E_c^2 - 2V_n E_c \cos \delta}}{X_S}$ $= \frac{\sqrt{V_n^2 + E_c^2 - 2V_n E_c \sqrt{1 - \left(\frac{P_1 X_S}{E_c V_n}\right)^2}}}{X_S}$ $= \frac{\sqrt{V_n^2 + E_c^2 - 2V_n E_c \sqrt{(E_c V_n)^2 - (P_1 X_S)^2}}}{X_S}$ <p>となり、題意より $E_c = kI_{fc}$ であるから、</p> $I_c = \frac{\sqrt{V_n^2 + (kI_{fc})^2 - 2kI_{fc} V_n \sqrt{(kI_{fc} V_n)^2 - (P_1 X_S)^2}}}{X_S}$	$I_c = \frac{\sqrt{V_n^2 + E_c^2 - 2V_n E_c \cos \delta_c}}{X_S}$ $= \frac{\sqrt{V_n^2 + E_c^2 - 2V_n E_c \sqrt{1 - \left(\frac{P_1 X_S}{E_c V_n}\right)^2}}}{X_S}$ $= \frac{\sqrt{V_n^2 + E_c^2 - 2V_n E_c \sqrt{(E_c V_n)^2 - (P_1 X_S)^2}}}{X_S}$ <p>となり、題意より $E_c = kI_{fc}$ であるから、</p> $I_c = \frac{\sqrt{V_n^2 + (kI_{fc})^2 - 2\sqrt{(kI_{fc} V_n)^2 - (P_1 X_S)^2}}}{X_S}$	

○2021年3月16日分

科目	問題	誤植箇所	誤	正
電力・管理	2017年 問4	問題(2)	故障発生後 0.1 秒間のタービン発電機の内部相角度増大量	故障発生後 0.1 秒間のタービン発電機の内部相角度増大量
機械・制御	2015年 問4	問題(1)	(記載無し)	$\frac{dx(t)}{dt} = Ax(t) + bu(t)$
	2016年 問1	解説(4)	$150s_2^2 - 101s_2 + 4 = 0$	$25s_2^2 - 101s_2 + 4 = 0$
	2017年 問2	解説(4)	$= 20000 \left[\frac{100}{R} + j \left(\frac{\sqrt{3}}{R} - \frac{2}{X_L} \right) \right]$	$= 20000 \left[\frac{1}{R} + j \left(\frac{\sqrt{3}}{R} - \frac{2}{X_L} \right) \right]$

	2019年問4	問題, 解説(4)	各周波数	角周波数
	2019年問4	解説(4)	$= \omega_n \sqrt{1 - \zeta^2}$	$= \omega_n \sqrt{1 - 2\zeta^2}$